

学校だより

葛野小学校教育目標

「未来を拓く 健やかな 葛野の子」



10月号

令和8年9月30日

横浜市立葛野小学校

校長 鈴木 亘世

子どもたちの学びを支える授業づくり

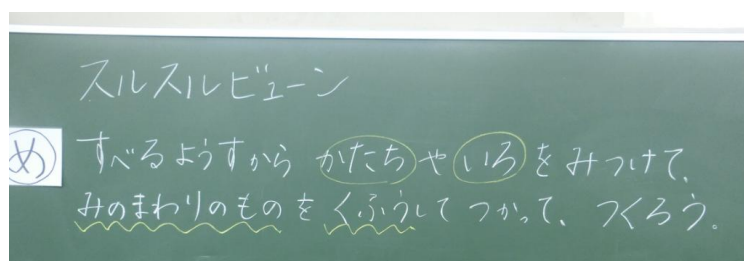
副校長 須山健太郎

例年よりかなり早いインフルエンザの流行が全国的に広がっています。本校ではまだ大きな流行や学級閉鎖などは見られませんが、インフルエンザでの欠席が少しずつ出てきています。各担任から、うがいや手洗いなどの基本的な感染症予防を呼び掛けていますが、ご家庭でもお気を付けいただければ幸いです。

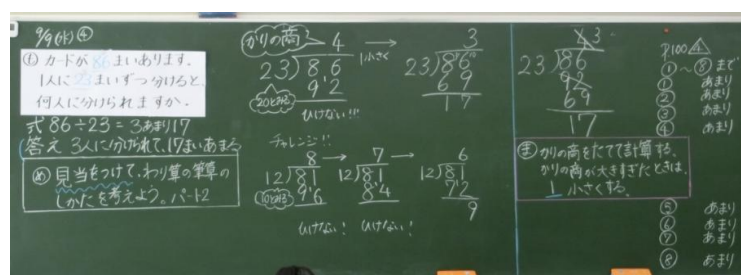
さて、夏休みが明けて1か月ほどたち、各学年では落ち着いた雰囲気の中で学習活動が進められています。学校では、子どもたち一人ひとりが「分かった」「できた」という実感をもちながら学ぶことができるよう、教職員が日々授業改善に取り組んでいます。

例えば、授業では学習のめあてや大切なポイントが子どもたちに伝わるよう、板書の工夫を行っています。めあての中でも特に重要な言葉を色や囲みを用いて強調したり、学習の流れが見通せるよう整理したりして示すことで、子どもたちが今、何を学んでいるのかを意識しながら学習に取り組めるようにしています。また、本校では毎週木曜日の放課後に学年ごとの授業研究や打合せの時間を設けています。そこでは、翌週以降の学習内容について確認し、子どもたちにつまずきやすいポイントや効果的な指導方法を共有しています。更に学習活動における安全面の配慮事項についても事前に確認し、安心して学べる環境づくりに努めています。

加えて、教室環境の整備にも力を入れています。掲示物の量や配置を工夫して必要な情報が分かりやすく伝わるようにしたり、学習に必要なものを見つけやすく整理したりするなど、ユニバーサルデザインの考え方を取り入れた教室づくりを進めています。視覚的な刺激を必要以上に増やさないことで、子どもたちが学習に集中しやすい環境を整えています。授業は教員一人の力だけで成り立つものではありません。教職員同士が学び合い、知恵を出し合いながら改善を重ねることで、よりよい学びが実現します。これからも子どもたちが安心して学び、自ら考え、主体的に活動できる授業づくりを進めてまいります。引き続き、本校の教育活動へのご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。



めあての大切な部分を強調した板書
学習の評価にもつながっていくポイントです。



学習の流れやポイントが1枚の板書で分かるように
事前に内容の整理や工夫をしています。